

Title	The Defense Style Questionnaire日本語版(DSQ42) : 日本での防衛機制研究のために
Sub Title	A Japanese version of the Defense Style Questionnaire (DSQ42) : to study defense mechanisms in Japan
Author	中西, 公一郎(Nakanishi, Koichiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1998
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.47 (1998. ) ,p.27- 33
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000047-0027">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000047-0027</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# The Defense Style Questionnaire 日本語版 (DSQ<sub>42</sub>)

—日本での防衛機制研究のために—

## A Japanese Version of the Defense Style Questionnaire (DSQ<sub>42</sub>): To Study Defense Mechanisms in Japan

中 西 公 一 郎\*

*Koichiro Nakanishi*

Bond's Defense Style Questionnaire (DSQ) has been widely used in research, but not yet in Japan. A Japanese version of the DSQ (DSQ<sub>42</sub>) is introduced together with a face sheet, computation table, and debriefing sheet. DSQ 40, the refined DSQ, was translated into Japanese and two lie detection items were added for DSQ<sub>42</sub>.

### I はじめに

1894年にFreudが防衛機制の概念を提唱し、人間の精神が自分自身を欺くことが出来る事は、広く認められるようになってきた(Cramer, 1990)。Hentschel, Smith, Ehlers, & Draguns (1993)は、彼らの著書の序文の中で、防衛機制がどのように考えられてきたかについて「学問的な心理学においては、防衛の概念は無視されたり、懐疑的に調べられたり、保留つきで受け入れられたりしてきた。関連した概念であるコーピングは、無意識という重荷を背負わずに済んだ事から広く受け入れられてきた。これらの概念は近接して（おそらく不可分に）結び付いているので、これらを受け入れるのか拒絶するのかという選択を迫られるようになった。……もはや精神分析志向の臨床家だけの関心ではなく、防衛機制は理論家と行動科学の実践者の両者に興味を持たれている広範囲の分野で重要であることが示されている (p. xxi)」と述べている。DSM-IV (APA, 1994)では、今後の研究のために提案された軸として、7水準・31種の防衛機制が付録Bで紹介されている (p. 751~757)。

日本では、防衛機制という言葉は多くの場面で用いられてきたものの、概念の整理をその都度行なってはこ

かった。防衛機制すなわち精神分析との認識が依然としてなされている。そして防衛機制自体の研究も、あまりなされていない。

### II Defense Style Questionnaire

防衛機制を特定する際の、評定者間信頼性という問題を克服するために Bond, Gardner, Christian, & Sigal (1983)は、Defense Style Questionnaire (DSQ) という質問紙を発表した。これは、外からの刺激への対応の自己評価によって、無意識に機能する防衛機制を探るものである。防衛機制を直接測定するわけではなく、主な防衛スタイルを概観する事から防衛機制を探る。防衛機制は無意識の機能なので、自己申告では測定出来ないという意見に対しては、以下の3点を挙げて反論している。(1)時として防衛はその役割を果たす事が出来ず、人々は容認できない衝動や通常なされるその衝動への防衛スタイルに気付く事が出来る。(2)防衛が起こっている時に気付かなくとも、回りの人間からたびたび自分の防衛機制について指摘される。(3)自分にとっての防衛的行動が取れない時に、不安や抑うつを感じた事を記憶しているかもしれない。

この質問紙では人々が自分達の行動を客観的に報告出来るという仮説のもとに、葛藤状況に（意識的にせよ無意識的にせよ）対処するための自分の特徴的なスタイルを引き出すように設計されている。開発にあたっては、

\* 慶應義塾大学保健管理センター（非常勤嘱託）  
慶應義塾高等学校・慶應義塾志木高等学校心理カウンセラー

2人の心理学者と1人の精神科医(3人のうち2人は精神分析家)が24の防衛機制を測定するために各々文章を作成し、3人全員が同意した97項目が残された。次にパイロット・スタディが行われ、同じ防衛機制を測定している項目で相関の低いものが削除された。そして全81項目のDSQが発表されたのである。Bond(1986a)は質問紙を用いて防衛機能を測定する事の利点(心理面接による測定と比較して)を以下のようにまとめている。「時間が節約できる、施行時に訓練された(または費用のかかる)専門家を必要としない、評定者間信頼性の問題を除去できる、標準化された形でどの防衛がどの程度存在するかを測定できる、基準データ収集の機会を提供する。結果として、さまざまな精神病理(または精神的健康度)水準を区別できる分岐点発見の可能性を開くことになる(p.15~16)」

Bond(1986b)は、DSQの改訂版(1984版)を作成しており、項目は81項目から88項目(79項目の防衛機制測定項目と10項目の虚偽検知項目、ただし1項目は両方に共通した測定項目)へと変更された。そして、測定される防衛機制も25となった。25の防衛機制とは、抑制、課題志向、予測、昇華、ユーモア、反動形成、打ち消し、内向、引きこもり、原始的理想化、エセ愛他主義、投影、受動攻撃、行動化、万能感/価値下げ、援助拒否の苦情、空想、隔離、分裂、投影性同一視、退行、身体化、否認、連携、消費である。Andrews, Pollock, & Stewart(1989)は、DSM-III-R(正確にはVaillant, 1986のDSM-III-Rの為の草案)に防衛機制の種類を合わせた82項目版DSQ(BondのDSQから72項目の防衛機制測定項目を選択、10項目の虚偽検知項目はそのまま使用)、より短時間で施行できる36項目版DSQ(BondのDSQから36項目の防衛機制測定項目を選択、虚偽検知項目は無し)を発表している。DSQはさまざまな研究に使用され、自我強度との関連(Bond, Gardner, Christian, & Sigal, 1983)、人格障害との関連(Johnson, Bornstein, & Krukonis, 1992)、気質や性格との関連(Mulder, Joyce, Sellman, Sullivan, & Cloninger, 1996)等が報告されている。

Andrews, Singh, Bond(1993)は、従来のDSQの欠点を以下のように指摘している:

1. 特定の障害を計測している項目がある。
2. 性格について質問している項目がある。
3. ある防衛スタイルは1項目で判定し、多いものは10項目で判定している等、判定項目数に大きなバラツキがある。

4. 喫煙・飲酒など特定の母集団だけに当てはまる項目がある。

以上の問題点を改善し、質問項目も多くなり過ぎないように配慮した結果、20の防衛スタイル(未熟な防衛: 投影, 受動攻撃, 行動化, 隔離, 価値下げ, 自閉的空想, 否認, 置き換え, 解離, 分裂, 合理化, 身体化; 神経症的な防衛: 打ち消し, エセ愛他主義, 理想化, 反動形成; 成熟した防衛: 昇華, ユーモア, 予測, 抑制)をそれぞれ2項目で判定するDSQ40が生まれた。

筆者はBondの許可・協力により、DSQ(1984版)の日本語版を作成した。その後、AndrewsからDSQ40を紹介された。DSQは自己申告なので、BondのDSQの虚偽検知項目は活用の余地があると筆者は考える。しかしながらBondは虚偽検知項目をどのように扱うかについては言及していないし、DSQ40には虚偽検知項目がない。そこでDSQ40に2項目の虚偽検知項目(BondのDSQから選択)を加え、DSQの日本語版(DSQ<sub>42</sub>)を作成した。現在、DSQは日本語版が存在しない為に研究も行われていないが、このDSQ<sub>42</sub>を虚偽検知項目と特定の防衛スタイルとの相関研究や防衛機制研究に活用して欲しいと考え、Andrewsに許可を得てここに紹介する事にした。尚、被験者にすぐに使用できるよう、フェイス・シート、集計用紙、結果報告用紙も併せて紹介した。DSQ<sub>42</sub>はコピーして、自由に使用する事ができる。

## 文 献

- American Psychiatric Association(1994): *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders* 4th edition (DSM-IV). Washington DC: American Psychiatric Association.
- Andrews, G., Pollock, C., & Stewart, G. (1989): The determination of defense style by questionnaire. *Archives of General Psychiatry*, 46, 455-460.
- Andrews, G., Singh, M., & Bond, M. (1993): The Defense Style Questionnaire. *The Journal of Nervous and Mental Disease*, 181 (4), 246-256.
- Bond, M., Gardner, S. T., Christian, J., & Sigal, J. (1983): Empirical study of self-rated defense styles. *Archives of General Psychiatry*, 40, 333-338.
- Bond, M. (1986a): An empirical study of defense styles. In G. E. Vaillant (Ed.), *Empirical studies of ego mechanisms of defense*. (pp. 1-29). Washington DC: American Psychiatric Press.
- Bond, M. (1986b): Bond's Defense Style Questionnaire (1984 Version). In G. E. Vaillant (Ed.), *Empirical studies of ego mechanisms of defense*. (pp. 146-152). Washington DC: American Psychiatric Press.
- Cramer, P. (1990): *The development of defense mechanisms: Theory, research, and assessment*. New York: Springer-Verlag.
- Freud, S. (1894): *The neuro-psychoses of defence*. Standard Edition, 3, 45-61. London: Hogarth Press, 1962.

- Hentschel, U., Smith, G. J. W., Ehlers, W., & Draguns, J. G. (1993): Introduction: Defense mechanisms in clinical practice, theoretical explanation, and experimental investigation. In U. Hentschel, G. J. W. Smith, W. Ehlers, & J. G. Draguns (Eds.), *The concept of defense mechanisms in contemporary psychology: Theoretical, research, and clinical perspectives*. (pp. xxi-xxvii). New York: Springer-Verlag.
- Johnson, J. G., Bornstein, R. F., & Krukonis, A. B. (1992): Defense styles as predictors of personality disorder symptomatology. *Journal of Personality Disorders*, 6 (4), 408-416.
- Mulder, R. T., Joyce, P. R., Sellman, J. D., Sullivan, P. F., & Cloninger, C. R. (1996): Towards an understanding of defense style in terms of temperament and character. *Acta Psychiatrica Scandinavica*, 93, 99-104.
- Vaillant, G. E. (1986): A draft glossary of defense mechanisms for DSM-III (R), In G. E. Vaillant (Ed.), *Empirical studies of ego mechanisms of defense*. (pp. 103-105). Washington DC: American Psychiatric Press.

原著者 Gavin Andrews, M.D.  
Michelle Singh, B.Sc. (Hons)  
Michael Bond, M.D.  
構成者 中西 公一郎

## DSQ<sub>42</sub>

### DSQを受けられる方へ

DSQは、自分の生き方をより豊かにしていくために、自分の特徴的な行動パターンや思考パターンを知るための質問紙です。まず以下の項目を記入して下さい。記入を終えたら、＜回答の仕方＞を読んでください。

検査日： 199 年 月 日

氏名： \_\_\_\_\_ (男・女) (未婚・既婚)

生年月日： 19 年 月 日 ( 歳)

職業： \_\_\_\_\_

#### ＜回答の仕方＞

私に全然当てはまらない                      私に全く当てはまる  
例： 私は女性である。    1 2 3 4 5 6 7 8 9

上の例では、あなたが女性なら9を選ぶでしょうから、9を○で囲むことになります。男性ならば1を○で囲むことになります。42の質問事項がありますので、各々の記述があなたに当てはまる程度を判断し、1～9のいずれかの番号を○で囲んでください。では、ページをめくって回答を始めてください。

## DSQ42 (Ver. 1.01)

	私に全然当てはまらない					私に全く当てはまる				
1. 私は他人を助けることで満足を得る。もし助ける機会を取り上げられたら、気分が沈むだろう。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
2. 問題を処理する時間ができる時まで、その問題を考えないようにしておく。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
3. 不安を抑えるために何か建設的かつ創造的なことをする (例えば描画や工作)。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
4. やる事には何でも、正当な理由を見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
5. 時々今日すべきことを明日まで引き伸ばす。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
6. 自分の失敗を笑いに変えることが容易にできる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
7. 人に利用されることが多い。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
8. もし誰かが私を襲ってお金を盗んだとしても、罰せられるより犯人がそのお金で助かることを望む。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
9. 不愉快な事実を、それがまるで存在しないかのように無視する傾向がある、と人から言われる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
10. 自分がまるで不死身であるかのように危険を無視する。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
11. うぬぼれている人の鼻をへし折る能力は私の誇りだ。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
12. 何か悩まされている時には、しばしば衝動的に行動する。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
13. 物事がうまくいかない時には体の具合が悪くなる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
14. とても内気な人間だ。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
15. 私がいつでも本当のことを言うとは限らない。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
16. 実生活でよりも空想上で満足を得る事が多い。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
17. 問題なく人生をやり過ごせるような特別な才能を持っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
18. 物事がうまくいかない時にはもっともな理由がある。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
19. 現実の生活においてよりも空想において物事をやり遂げる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
20. 私は何も恐れない。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
21. ある時には自分が天使であると思い、ある時には悪魔であると思う。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
22. 傷つけられると、あからさまに攻撃的になる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
23. 知っている誰かが自分の守り神のようだといつも感じている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	

	私に全然当てはまらない					私に全く当てはまる				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
24. 私の知っているかぎりでは、人は善か悪のいずれかである。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
25. もし上司が私をいらいらさせたら、仕事でわざとミスしたり、ゆっくりやったりして仕返す。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
26. 何でもすることができて、絶対に公平かつ公正である人が知人にいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
27. 自分の活動の妨げになるような感情を私は抑え続けることができる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
28. 苦しい状況でも、そのおもしろい側面を見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
29. 好きでないことをしなければならぬ時には頭が痛くなる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
30. 当然怒りを感じるべき人に対して、自分がとても親切であることにしばしば気がつく。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
31. 人生において自分が不当な扱いを受けていると確信している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
32. 困難な状況に出会うことが分かった時には、その内容を予測し対策を立てる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
33. 医者は私のどこが悪いのか、けっして本当にはわからない。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
34. 自分の権利のために戦った後で、その主張について謝る傾向がある。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
35. 落ち込んでいたり不安な時には、食べることで気分が良くなる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
36. しばしば自分の感情を見せないと人から言われる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
37. 悲しい出来事が事前に予測できたなら、それにもっとうまく対応することができる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
38. たとえどれだけ不平を言っても、けっして満足のいくような回答を得られない。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
39. 激しい感情を引き起こすような状況においても、何も感じないことがしばしばある。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
40. 手近な仕事に集中することで、気分が沈んだり不安になったりすることを避けられる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
41. もし危機にあつたら、同じ問題を抱えている人を捜し出すだろう。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
42. もし攻撃的な考えをもつたら、それを打ち消すために何かをする必要性を感じる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	

### DSQ<sub>42</sub>の集計用紙

虚偽検知項目 5 ( ) 15 ( )  
 (社会的な望ましさ)

5以下が 0: A  
 5以下が 1: B  
 5以下が 2: C

#### I. 未熟な防衛

- (1) 投影 7 ( ) 31 ( )
- (2) 受動攻撃 25 ( ) 38 ( )
- (3) 行動化 12 ( ) 22 ( )
- (4) 隔離 36 ( ) 39 ( )
- (5) 価値下げ 11 ( ) 14 ( )
- (6) 自閉的空想 16 ( ) 19 ( )
- (7) 否認 9 ( ) 20 ( )
- (8) 置き換え 33 ( ) 35 ( )
- (9) 解離 10 ( ) 17 ( )
- (10) 分裂 21 ( ) 24 ( )
- (11) 合理化 4 ( ) 18 ( )
- (12) 身体化 13 ( ) 29 ( )

合計	得点
/ 2	1
/ 2	2
/ 2	3
/ 2	4
/ 2	5
/ 2	6
/ 2	7
/ 2	8
/ 2	9
/ 2	10
/ 2	11
/ 2	12
/ 24	

未熟な防衛のスコア

#### II. 神経症的な防衛

- (13) 打ち消し 34 ( ) 42 ( )
- (14) エセ愛他主義 1 ( ) 41 ( )
- (15) 理想化 23 ( ) 26 ( )
- (16) 反動形成 8 ( ) 30 ( )

/ 2	13
/ 2	14
/ 2	15
/ 2	16
/ 8	

神経症的な防衛のスコア

#### III. 成熟した防衛

- (17) 昇華 3 ( ) 40 ( )
- (18) ユーモア 6 ( ) 28 ( )
- (19) 予測 32 ( ) 37 ( )
- (20) 抑制 2 ( ) 27 ( )

/ 2	17
/ 2	18
/ 2	19
/ 2	20
/ 8	

成熟した防衛のスコア

\* 集計時の注意: 未回答がある場合は、得点計算の際に除数を修正する事。

\* 結果報告のルール: 1. スコア6以上の防衛スタイルが3以下の場合、スコアの高い順に4項目まで記入。

(報告用紙使用時) 2. スコア6以上の防衛スタイルが4以上7以下の場合、スコア6以上の項目をスコアの高い順に記入。

3. スコア6以上の防衛スタイルが8以上の場合、スコアの高い順に7項目まで記入。

#### <被験者のデータ>

検査日: 199 / /

被験者の氏名: \_\_\_\_\_

性別 (男・女)、未婚・既婚

生年月日: 19 / / ( 歳)

最終学歴: ( 中学・高校・専門学校・短大・大学・修士・博士 年) ( 卒業・中退・在学)

職業: \_\_\_\_\_

主訴 (当初の問題点): \_\_\_\_\_

診断名: \_\_\_\_\_

病歴: 初診 19 / / 、初発 19 / / 、治療歴:

知能指数 (測定方法): ( )

家族構成: \_\_\_\_\_

特記事項: \_\_\_\_\_

## &lt; D S Q 42 の 結 果 報 告 &gt;

検査日： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_ 様

先日記入して頂いたDSQの結果は、以下のようになりましたのでご報告します。

## ※ 回答に影響を及ぼした「社会的な望ましさ」について：

アンケートでは、「社会的な望ましさ」によって結果が影響を受ける可能性があります。あなたの回答の「社会的な望ましさ」による影響の程度は（ ）と思われます。くわしくは以下の説明をご覧ください。

- A：率直に回答されています。以下の結果はあなたの心理的傾向をかなり客観的に示していると思われます。
- B：あなたの回答には「社会的な望ましさ」の影響がやや認められました。以下の結果は、あなた本来のものより少し一般的な傾向を示している可能性があります。
- C：あなたの回答には「社会的な望ましさ」の影響が強く認められました。以下の結果は、あなた本来のものよりかなり一般的な傾向を示している可能性があります。

## あなたの行動特徴

( ) 内にあなたの行動特徴が強い順に記入されています。1は1番強い行動特徴、2は2番目に強い行動特徴、というようにです。良い特徴は活かして今後の生活を豊かにする参考にして下さい。

- ( ) 1. うまくいっていない場合、それをとかく人のせいにしてしまう傾向
- ( ) 2. 不愉快な時に、ミスをしたりして周囲に迷惑をかける傾向
- ( ) 3. ストレスを受けると、衝動的に行動してしまう傾向
- ( ) 4. つらい時にそのつらい感情を受け入れない傾向
- ( ) 5. 他人の能力を過小評価する傾向
- ( ) 6. 困難な状況では空想に逃避する傾向
- ( ) 7. つらい事から目をそらす傾向
- ( ) 8. 不満対象の代わりのものに欲求や攻撃性を向ける傾向
- ( ) 9. 自分とは別の自分があるような言動がある傾向
- ( ) 10. 人や物事を良いか悪いかに分けてしまい、中間的な考えを持ちにくい傾向
- ( ) 11. 物事を自分の都合の良いように考えてしまう傾向
- ( ) 12. 苦しい状況で身体の調子が悪くなる傾向
- ( ) 13. 考えたり行なったりした事にたいして、それとは反対の行動でバランスを取る傾向
- ( ) 14. 自分を犠牲にして、人の喜びを求める傾向
- ( ) 15. 他人を理想化する傾向
- ( ) 16. 自分の感情とは反対の行動を取る傾向
- ( ) 17. ストレスを建設的な事で発散させる傾向
- ( ) 18. ユーモアを利用して苦しい気持ちをやわらげる傾向
- ( ) 19. 困難な状況をあらかじめ予測し、それに対応できるような準備をしておく傾向
- ( ) 20. 適切な時になるまで、妨げになる考えを心の内に留めておく傾向